

平成27年度

「中小企業の診断及び助言に関する実務の事例Ⅳ」の出題の趣旨

第1問（配点28点）

（設問1）

D社と同業他社の財務諸表の数値をもとに、D社の財務状態の評価目的にかなった財務比率を選択し、計算する能力を問う問題である。

（設問2）

適切な財務比率に基づいて、同業他社と比較した場合のD社の財務的な特徴を説明する能力を問う問題である。

第2問（配点34点）

（設問1）

損益予測に関する情報を理解し、予測損益計算書を作成する能力を問う問題である。

（設問2）

予測損益計算書をもとに、D社の将来における損益状況の特徴を理解し、そのような傾向が生じる原因を推定する能力を問う問題である。

（設問3）

予測損益計算書をもとに、与えられた条件に応じて、短期利益計画に有用なCVP分析を実施する能力を問う問題である。

第3問（配点26点）

（設問1）

各プロジェクトの内容を理解し、全社的損益の状況に関する条件のもとで各プロジェクトの将来におけるキャッシュ・フローを予想する能力を問う問題である。

（設問2）

将来の予想キャッシュ・フローに基づき、正味現在価値によってプロジェクトの採算性を判断する能力を問う問題である。

（設問3）

プロジェクトの流動性評価の指標を理解したうえで、将来の予想キャッシュ・フローに基づき、プロジェクトの流動性を判断する能力を問う問題である。

第4問（配点12点）

（設問1）

大口得意先が存在することが、D社の企業経営に与えるデメリットに関する理解を問う問題である。

（設問2）

大口得意先の存在が経営に与えるデメリットを解消するために、特定の製品を製造・販売することによる効果についての理解を問う問題である。

以上